

## 平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	これからの保健体育教師に求められる授業実践力に関する定性的研究 ーエキスパート・ティーチャーにおける検討ー		
プロジェクト期間	平成24年度～平成25年度		
申請代表者 (所属講座等)	兄井 彰 (保健体育講座)	共同研究者 (所属講座等)	本多壮太郎 (保健体育講座)
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究は、平成24年度から引き続き、体育教師の職能について明らかにするため、エキスパート・ティーチャーと呼ばれる中学校保健体育教師に対して、インタビュー調査を行い、優れた体育教師が、どのような考えや手立てにより、体育の授業実践に取り組んでいるかについて、定性的に理解することを目的とした。①平成25年4月から7月までに新たに対象者を選定し、インタビュー調査を実施した。②平成25年7月～平成26年2月までにインタビューデータの定性的分析を行った。前年度同様の方法により分析に取り組み、旅費により日本体育学会に参加し発表を行った。③このインタビュー調査と平行して、平成26年2月までにインタビューデータの定性的分析・考察を行った。記述化されたデータを用いてコーディングと分類を行い、対象者の授業実践について方法論的視点より吟味した。</p>		
研究成果の概要	<p>優れた中学校保健体育教師が捉える職能は、「情熱・向上心」「運動や運動の楽しさに関する知識・理解」「授業設計力」「集団の統率力」「実技力・示範力」「観察力」「動きのイメージの伝達力」「コミュニケーション能力」に分類された。</p> <p>この優れた中学校保健体育教師が捉える職能について、「情熱・向上心」「運動や運動の楽しさに関する知識・理解」は、授業設計・実践を行う上での下地であり、「集団の統率力」は体育教師としての「基本的実技力」であると捉えられていた。「実技力・示範力」は、あらゆる領域や種目を授業レベルで実践できる「専門的実技力」であるという考えと、動きや動きのポイントを伝える上での下地となるという考えの2つが示された。特に、専門的実技力は、教師歴の少ない教員に必要な力であるとの捉え方も示された。「観察力」「動きのイメージの伝達力」は、体育授業実践の「中核」として捉えられていた。「コミュニケーション能力」においては、他の資質や能力をよりよく発揮していくための「潤滑油」であると捉えられていた。</p> <p>対象者がそれぞれの資質や能力の必要性、あるいはそれらの関連性について認識するに至った要因については、一つには、自分のそれまでのやり方が通用しない「出来事」が契機となっていることが挙げられた。これについて、授業における学習者とのやり取りや授業実践の結果に対して納得のいかない思いの重なりといった過程があることが挙げられた。さらにもう一つには、自分たちが年齢を重ねるにつれて備えていた能力を発揮するのが難しくなってきた、あるいは発揮できなくなってきたとの認識の過程についても挙げられた。</p> <p>以上のように、中学校保健体育教師が捉える職能は、多岐にわたっていることが確認できた。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 ( <input checked="" type="checkbox"/> 国内 ) ・ 国外 ) : <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input type="checkbox"/> その他 :